



2019年6月18日

各 位

上 場 会 社 名 株式会社 Lib Work
 代 表 者 名 代表取締役社長 瀬口 力
 (コード番号:1431 東証マザーズ・福証 Q-Board)
 問 合 せ 先 取締役管理部長 櫻井 昭生
 (TEL. 0968-44-3559)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日2019年6月18日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は、以下のとおりであり、また、最近の決算情報等については別添のとおりです。添付資料は、2019年5月10日に公表いたしました「2019年6月期第3四半期決算短信（非連結）」であります。

【個別】

(単位:百万円、%)

	2019年6月期 (予想)			2019年6月期 第3四半期累計期間 (実績)		2018年6月期 (実績)	
		対売上高 比率	対前期 増減率		対売上高 比率		対売上高 比率
売上高	6,589	100.0	29.1	4,504	100.0	5,104	100.0
営業利益	518	7.9	54.7	304	6.8	334	6.6
経常利益	563	8.5	51.6	338	7.5	371	7.3
当期(四半期)純利益	380	5.8	49.1	225	5.0	254	5.0
1株当たり当期(四半期)純利益	150.38円			89.42		100.86	
1株当たり配当金	25.00円			17.50円		25.00円	

- (注) 1. 当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2018年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2018年6月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。なお、2018年6月期の1株当たり配当額は、株式分割前の中間配当額15円と株式分割後の期末配当額10円(株式分割を考慮しない場合は20円)を合計したものであります(株式分割を考慮しない場合の年間配当額は35円)。
3. 2019年6月期(予想)の1株当たり当期純利益は公募株式数150,000株を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。

【2019年6月期の業績予想の前提条件】

1. 全般的な見通し

当社は、熊本県を主力拠点とし、注文住宅の企画、設計、販売、施工、監理を主な事業内容とする戸建住宅事業を行っております。主要顧客層を25歳から44歳の第一次取得者層と設定し、これらのお客様に対して、創業以来の主力商品であるオーダーメイドの「戸建注文住宅」、都市部コンパクト住宅の「都市型建売住宅」及び株式会社良品計画グループのブランド住宅である「無印良品の家」を提供しております。

当社は、販売戦略において常設展示場のみならず、住宅関連のカテゴリーサイトの運営やコーポレートサイト内でのインターネット展示場の設置など独自のWeb戦略に注力し、集客コストを抑えることで販売価格を抑える一方、基準を上回る高省エネ性能、耐震性能3等級、制震ダンパー標準装備及び内部結露保証30年等の高付加価値性能を備えた住まいを提供しております。

当社の主要事業である住宅業界においては、住宅ローン減税等の政府の各種住宅取得支援策に加え、住宅ローンの低金利も継続しており、当社の主要販売エリアとなる熊本県における平均着工数は、熊本地震前と比較すると依然高い水準で推移しております。

当社は、2019年6月期におきましては、独自のWeb戦略を強化しつつ、熊本県北部での住宅総合展示場の追加出店（2018年11月）により、実店舗での営業拠点をエリア拡大することでマルチチャネル戦略を強化し、集客と商談数の最大化を目指しております。また、安定的な施工体制を構築するため協力業者の確保にも努めております。

このような状況のもと、第3四半期累計期間におきましては、主力の注文住宅の受注・引渡が好調に推移し、売上高は4,504百万円、営業利益は304百万円、経常利益は338百万円、四半期純利益は225百万円となりました。これを踏まえて、当社は、2019年5月10日の取締役会にて2019年6月期通期の業績予想を修正しております。当該予想につきましては、2019年4月度までを実績に置き換えたうえで、2019年5月度から2019年6月度までの見込みを加算することで策定しており、売上高6,589百万円（前期比29.1%増）、営業利益518百万円（前期比54.7%増）、経常利益563百万円（前期比51.6%増）、当期純利益380百万円（前期比49.1%増）を見込んでおります。

2. 売上高

当社は戸建注文住宅事業の単一セグメントとなっており、売上高の内訳は、注文住宅の建築請負に係る「完成工事高」、建売住宅や土地の販売に係る「不動産販売高」及び建築に係る各種手数料収益等の「その他」で構成されております。完成工事高は、2019年4月度までの実績に加えて、2019年5月度以降の引渡計画に基づく物件売上高の積上げにより算定しております。なお、注文住宅の受注から引渡までの期間は4～5ヶ月程度であるため、当お知らせ公表時点（2019年6月）において、2019年6月期末までの顧客への引渡は概ね確定しており、受注予想による計画数値は含まれておりません。

この他、不動産販売高及びその他売上高の見込額を反映し、第3四半期累計期間における売上高実績が4,504百万円であったことを踏まえ、2019年6月期通期において、売上高は6,589百万円（前期比29.1%増）と見込んでおります。

3. 売上原価、売上総利益

完成工事原価は、2019年4月度までの実績に加えて、2019年5月度以降の引渡計画に基づく予算原価の積上げにより算定しております。この他、不動産販売原価の見込額を反映し、売上原価は4,816百万円（前期比27.0%増）と見込んでおります。なお、注文住宅の受注から引渡までの期間は4～5ヶ月程度であるため、当お知らせ公表時点（2019年6月）において、2019年6月期末までの顧客への引渡は概ね確定しているため、完成工事原価もこれに連動した数値となっております。

この結果、第3四半期累計期間における売上総利益実績が1,211百万円であったことを踏まえ、2019年6月期通期の売上総利益は、1,773百万円（前期比35.1%増）と見込んでおります。

4. 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費は、前期実績を参考に個別に発生する費用を積み上げて策定しております。販売費及び一般管理費の主な項目は、以下のとおりであります。

人件費については、人員計画に一定の昇給及び賞与を加味して、各人員別の想定人件費を積み上げて総額を算出しております。2019年6月期末の従業員数は、前期末比28名増加の153名を計画しており、この人員の増加に伴い、前期比75百万円の増加となる558百万円を見込んでおります。

支払手数料については、上場準備費用の他、業務効率化を目的としたシステム投資の増加を見込んでおり、前期比36百万円の増加となる103百万円を見込んでおります。

広告宣伝費については、前期実績を基礎として、営業エリア拡大及び集客効率向上を目的とした展示場の追加出展費用のほか、当社ブランド力向上を目的とした熊本県営野球場（リブワーク藤崎台球場）のネーミングライツ費用を含むブランディング費用等を含めており、前期比68百万円増加の199百万円を見込んでおります。

減価償却費については、個別の設備投資計画をそれぞれ積み上げて算出しており、前期比10百万円増加の30百万円を見込んでおります。なお、住宅総合展示場については、契約展示期間5年間における均等償却としております。

この結果、第3四半期累計期間における販売費及び一般管理費は907百万円であったことを踏まえ、2019年6月期通期の販売費及び一般管理費は1,255百万円（前期比28.4%増）となり、営業利益は518百万円（前期比54.7%増）を見込んでおります。

5. 営業外損益、経常利益

営業外収益については、引渡物件数に比例する検査関連手数料等の受取手数料を見込んでおります。営業外費用については、上場関連費用4百万円を見込んでおります。

この結果、第3四半期累計期間における経常利益は338百万円であったことを踏まえ、2019年6月期通期の経常利益は563百万円（前期比51.6%増）を見込んでおります。

6. 当期純利益

特別損益については、事業用土地の売却益12百万円を見込んでおります。

法人税等については、損益計画に基づいて税額を見積もり、法人税等調整額を加味して算出しております。繰延税金資産の回収可能性の判定において、スケジューリング可能な将来減算一時差異のみを回収可能性があるものとして算出しております。

この結果、第3四半期累計期間における当期純利益は225百万円であったことを踏まえ、2019年6月期通期の当期純利益は380百万円（前期比49.1%増）を見込んでおります。

（注）上記の業績予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後さまざまな要因により、予想数値と異なる可能性があります。

以上



2019年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年5月10日

上場会社名 株式会社 Lib Work 上場取引所 福
 コード番号 1431 URL https://www.libwork.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 瀬口 力
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 櫻井 昭生 TEL 0968 (44) 3559
 四半期報告書提出予定日 2019年5月13日 配当支払開始予定日 2019年6月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期第3四半期の業績 (2018年7月1日～2019年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第3四半期	4,504	25.8	304	44.5	338	41.7	225	44.0
2018年6月期第3四半期	3,580	49.2	210	396.9	238	296.2	156	274.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年6月期第3四半期	89.42	89.25
2018年6月期第3四半期	62.09	62.05

(注) 当社は、2018年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施いたしました。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年6月期第3四半期	3,307	1,637	49.5	648.18
2018年6月期	2,872	1,466	51.0	580.26

(参考) 自己資本 2019年6月期第3四半期 1,637百万円 2018年6月期 1,466百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期	—	15.00	—	10.00	—
2019年6月期	5.50	6.00	6.00		
2019年6月期 (予想)				7.50	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正につきましては、本日公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正 (増配) に関するお知らせ」をご参照ください。なお、当社は2018年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施いたしました。2018年6月期の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式分割を考慮しない場合の2018年6月期の1株当たり期末配当金は20円となり、1株当たり年間配当金は35円となります。

3. 2019年6月期の業績予想（2018年7月1日～2019年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,589	29.1	518	54.7	563	51.6	380	49.1	150.38

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正につきましては、本日公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年6月期3Q	2,527,000株	2018年6月期	2,527,000株
② 期末自己株式数	2019年6月期3Q	一株	2018年6月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年6月期3Q	2,527,000株	2018年6月期3Q	2,527,000株

（注）当社は、2018年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施しております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

「2019年6月期第3四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第3四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(セグメント情報等)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、通商問題の動向が世界経済に与える影響や海外経済の動向と政策に関する不確実性および金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある一方で、企業収益や雇用・所得環境の改善が継続しており、緩やかな景気回復が続きました。

住宅業界におきましては、政府によるマイナス金利政策における低金利の住宅ローンをはじめ、各種住宅取得支援策が継続しており、全国の持家の着工数はやや持ち直してきております。国土交通省公表の全国の新設住宅着工数(持家)は、2019年1月度は前年同月比で3.3%増、同年2月度は前年同月比で9.9%増、同年3月度は前年同月比で8.9%増という推移となり、持家は6か月連続の増加となりました。同様に当社の主要販売エリアとなる熊本県においては、2019年1月度は同年前月比で6.3%減、同年2月度は前年同月比で2.3%減、同年3月度は前年同月比で20.5%減となり、前年同月比で減少してはおりますが、地震発生前と比較すると依然高い水準のまま推移しております。

このような環境のなか、当社は独自のビジネスモデルとしてWeb集客を強化しておりますが、当第3四半期累計期間は前年同四半期比で32.4%増と堅調に推移しました。また熊本県で人口増加の著しい合志市において38区画の用地仕入れをおこないました。加えて2019年10月から予定されている10%への消費税率引き上げに伴い、駆け込み需要への積極的な受注対応をおこないました。その他、沖縄県宮古島市にて新たにアパート建築を2棟受注いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高は4,504,901千円(前年同四半期比25.8%増)、営業利益304,085千円(前年同四半期比44.5%増)、経常利益338,323千円(前年同四半期比41.7%増)、四半期純利益225,963千円(前年同四半期比44.0%増)となり、売上高、各利益ともに第3四半期累計期間としては過去最高となりました。

なお、当社は戸建て住宅事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ434,465千円増加し、3,307,259千円となりました。

流動資産については、前事業年度末に比べ477,435千円増加し2,877,339千円となりました。これは主として未成工事支出金の増加87,272千円、販売用不動産の増加161,848千円、仕掛販売用不動産の増加435,260千円、現金及び預金の減少115,931千円等によるものであります。

固定資産については、前事業年度末に比べ42,970千円減少し、429,920千円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ262,831千円増加し、1,669,317千円となりました。

流動負債については、前事業年度末に比べ306,955千円増加し、1,557,979千円となりました。これは主として未成工事受入金の増加126,702千円、短期借入金の増加100,000千円等によるものであります。

固定負債については、前事業年度末に比べ44,123千円減少し、111,338千円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ171,633千円増加し、1,637,941千円となりました。これは剰余金の配当54,330千円、四半期純利益225,963千円の計上による利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2018年8月10日に公表した2019年6月期の業績予想及び2018年11月13日に公表した配当予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては、本資料を公表した時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当第3四半期会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,147,824	1,031,892
完成工事未収入金	9,158	16
売掛金	1,147	1,035
有価証券	50,000	—
未成工事支出金	433,574	520,847
販売用不動産	119,386	281,234
仕掛販売用不動産	517,601	952,862
原材料及び貯蔵品	5,002	4,217
未収還付法人税等	139	—
その他	116,067	85,232
流動資産合計	2,399,903	2,877,339
固定資産		
有形固定資産	369,349	334,340
無形固定資産	13,655	11,872
投資その他の資産	89,885	83,707
固定資産合計	472,890	429,920
資産合計	2,872,793	3,307,259
負債の部		
流動負債		
工事未払金	402,988	422,078
1年内償還予定の社債	—	50,000
短期借入金	—	100,000
未払法人税等	83,055	60,799
未成工事受入金	486,882	613,584
その他	278,097	311,517
流動負債合計	1,251,024	1,557,979
固定負債		
社債	50,000	—
資産除去債務	3,300	4,770
退職給付引当金	1,683	1,906
役員退職慰労引当金	83,976	85,561
完成工事補償引当金	16,502	19,101
固定負債合計	155,462	111,338
負債合計	1,406,486	1,669,317
純資産の部		
株主資本		
資本金	256,909	256,909
資本剰余金	139,659	139,659
利益剰余金	1,069,738	1,241,371
株主資本合計	1,466,307	1,637,941
純資産合計	1,466,307	1,637,941
負債純資産合計	2,872,793	3,307,259

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
売上高	3,580,193	4,504,901
売上原価	2,667,460	3,293,078
売上総利益	912,732	1,211,822
販売費及び一般管理費	702,304	907,737
営業利益	210,427	304,085
営業外収益		
受取利息	240	94
受取手数料	20,673	21,411
その他	7,584	12,965
営業外収益合計	28,499	34,472
営業外費用		
支払利息	—	10
社債利息	110	110
社債保証料	112	112
営業外費用合計	223	234
経常利益	238,703	338,323
特別利益		
固定資産売却益	38	12,184
特別利益合計	38	12,184
特別損失		
固定資産除却損	705	—
特別損失合計	705	—
税引前四半期純利益	238,035	350,508
法人税、住民税及び事業税	73,996	118,647
法人税等調整額	7,131	5,896
法人税等合計	81,128	124,544
四半期純利益	156,907	225,963

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)

当社は、戸建住宅事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

当社は、戸建住宅事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。